

- Morita T, Hara T, Endo T, Ishihara F, Fujita H. Mass likelihood based on the contralateral and longitudinal comparisons for computer-aided mass detection in whole breast ultrasonography. The 96th RSNA Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, 11/28-12/03, 2010, Education Exhibit (Computer Exhibit).
11. Hamashima C, Aoki D, Miyagi E, Saito E, Nakayama T, Sagawa M, Saito H, Sobue T. New Guideline for cervical cancer screening in Japan. Pan-European Network Meeting ECCG-ECN-Eurocourse, Warsaw, 05/22-24, 2010, oral.
  12. Hamashima C, Saito H, Sobue T. Estimation of overdiagnosis by new technologies for cancer screening. Health Technology Assessment International 7th Annual Meeting, Dublin, 06/06-09, 2010, oral.
  13. Hamashima C, Nakayama T, Endo C, Sagawa M, Saito H, Sobue T. Evaluation of lung cancer screening ; The Japanese guidelines for lung cancer screening. International Cancer Screening Network, London, 06/23-25, 2010, oral.
  14. Kajitani K, Ohdan H, Tanaka Y, Kataoka T. A novel concept of adoptive immunotherapy with tumor necrosis factor-related, apoptosis-inducing, ligand-expressing natural killer cells for eliciting an anti-breast-cancer response. ASCO Annual Meeting 2010, Chicago, USA, 06/04-08, 2010, publication only.
  15. Osaki A, Takeuchi H, Sugitani I, Sugiyama M, Nakamiya N, Shigekawa T, Misumi M, Fijiuchi N, Takahashi T, Saeki T. Changed in bone mineral density and bone turnover markers after anastrozole treatment and effect of bone pharmacotherapy in postmenopausal breast cancer. 9<sup>th</sup> International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, 8/25-8/27, 2010, Poster.
  16. Osaki A, Sugitani I, Sugiyama M, Nakamiya N, Shigekawa T, Takeuchi H, Misumi M, Fijiuchi N, Takahashi T, Saeki T. Nipple-sparing mastectomy without breast reconstruction: clinical experience. 3rd International Oncoplastic Breast Surgery Symposium, Tokyo, 11/25-11/27, 2010, Poster.
  17. Ozaki S, Ohara M, Emi A, Shigematu H, Sasada T, Yasui D, Haruta R, Kataoka T, Okada M. Subcutaneous total glandectomy for gynecomastia using endoscopic assistance and tumescent technique. International Oncoplastic Breast Surgery Symposium 2010, Tokyo, Japan, 11/25-26, 2010, oral.
  18. Saito H, Yamamoto S, Hamashima C, Kudo S. Randomized controlled trial evaluating the effectiveness of one-shot screening colonoscopy: Study design. Pan-European Network Meeting ECCG-ECN-Eurocourse Warsaw, 05/22-24, 2010, oral.
  19. Saito H, Saika K, Matsuda K, Shimada T. Diagnostic yields of immunochemical fecal occult blood screening in Japan-reduced stage and increased curable resection rate of colorectal cancer. UEGW Barcelona 2010 (18th United European Gastroenterology Week), Barcelona, 10/23-27, 2010, poster.
  20. Saito H, Ishikawa Y, Saika K, Matsuda K. The effects of a communitywide multi-component media campaign on colorectal cancer screening. UEGW Barcelona 2010 (18th United European Gastroenterology Week), Barcelona, 10/23-27, 2010, poster.

21. Taguchi A, Sueti Y, Tanimoto T, Kataoka T. Bone mass of the mandible and the risk of breast cancer among Japanese postmenopausal women. The 8th. Asian Congress of Oral and Maxillo-Facial Radiology. Seoul, Korea, 11/14-16, 2010, oral.
- (2) 国内会議
1. Ohuchi N, Miki Y. In the front of breast cancer research: towards steady decrease of cancer mortality. Symposium on Specific Tumors. 第66回日本癌学会学術総会, 2007/10, 横浜.
  2. 甘利正和, 石田孝宣, 武田元博, 鈴木昭彦, 大内憲明. 若年者乳癌の臨床病理学的検討. 第15回日本乳癌学会総会, 2007/6, 横浜.
  3. 古妻嘉一, 遠藤登喜子, 森本忠興, 岩瀬拓士, 大貫幸二, 角田博子, 東野英利子, 大内憲明. マンモグラフィ読影講習会の教育効果と精度管理, 第15回日本乳癌学会総会, 2007/6, 横浜.
  4. 鈴木昭彦, 石田孝宣, 武田元博, 甘利正和, 宇佐美伸, 多田寛, 大内憲明. 超音波併用マンモグラフィ検診に向けた検診精度シミュレーション, 第15回日本乳癌学会総会, 2007/6, 横浜.
  5. 大貫幸二, 遠藤登喜子, 大内憲明, 森谷卓也, 光山昌珠. デジタルマンモグラフィとアナログマンモグラフィの大規模比較読影実験, 第15回日本乳癌学会総会, 2007/6, 横浜 (パネルディスカッション).
  6. 小宮裕文, 石田孝宣, 大内憲明. 126例の非触知乳癌のまとめ, 第107回日本外科学会定期学術総会, 2007/4, 大阪.
  7. 多田寛, 鈴木昭彦, 武田元博, 石田孝宣, 大内憲明. 仙台市医師会マンモグラフィ併用乳癌検診での2次読影で救済された癌症例の検討, 第107回日本外科学会定期学術総会, 2007/4, 大阪.
  8. 河合賢朗, 石田孝宣, 大内憲明. 年代別乳癌検診感度の検討, 第107回日本外科学会定期学術総会, 2007/4, 大阪.
  9. 渡部剛, 石田孝宣, 武田元博, 鈴木昭彦, 甘利正和, 櫻井遊, 伊藤正裕, 原田成美, 河合賢朗, 渋谷大助, 大内憲明. 検診マンモグラフィ導入による非浸潤癌増加と, 非浸潤癌の画像特性の検討. 第108回日本外科学会定期学術集会, 2008/5/15-17, 長崎.
  10. 鈴木昭彦, 石田孝宣, 武田元博, 甘利正和, 大内憲明. 乳腺針生検の診断精度の検討. 第108回日本外科学会定期学術集会, 2008/5/15-17, 長崎.
  11. 大内憲明. 超音波による乳がん検診の有効性を検証するための比較試験. 第13回日本産婦人科乳癌学会, 2008/9/14-15, 徳島 (特別講演).
  12. 大内憲明. 超音波による乳がん検診: EBM 創成のための大規模比較試験, 第16回日本がん検診診断学会, 2008/9/19-20, 東京 (特別講演).
  13. 石田孝宣, 大内憲明. がん戦略研究 (J-START): 乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008/9/26-27, 大阪.
  14. 宮下穰, 鈴木昭彦, 石田孝宣, 武田元博, 甘利正和, 櫻井遊, 伊藤正裕, 河合賢朗, 大内憲明. マンモグラフィ検診繰り返し受診者から発見された乳癌の検討. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008/9/26-27, 大阪.
  15. 鈴木昭彦, 石田孝宣, 武田元博, 甘利正和, 櫻井遊, 河合賢朗, 渋谷大助, 大内憲明. ソフトコピー診断による乳癌検診の実際. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008/9/26-27, 大阪.
  16. 櫻井遊, 鈴木昭彦, 石田孝宣, 武田元博, 甘利正和, 渡部剛, 渋谷大助, 大内憲明. ソフトコピー診断の問題点: 石灰化症例のカテゴリー判定に関する検討. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008/9/26-27, 大阪.
  17. 渡部剛, 石田孝宣, 武田元博, 鈴木昭彦, 甘利正和, 大内憲明. 非浸潤癌60症例に対するMMG, US, MRIの感度と病理所見の対比. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008/9/26-27,

- 大阪。
18. 大内憲明. 事業評価からみた乳癌検診の現状と今後の課題. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008/9/26-27, 大阪 (パネルディスカッション).
  19. 大内憲明. がん対策のための戦略研究とがん検診のあり方, シンポジウム「がん検診のあり方を考える」, 第46回日本癌治療学会総会, 2008/10/30-11/01, 名古屋.
  20. 玉城研太郎, 石田和之, 河合賢朗, 石田孝宣, 鈴木昭彦, 森谷卓也, 玉城信光, 大内憲明. 乳房超音波と病理. 第18回日本乳癌検診学会総会, 2008/12/5-6, 名古屋.
  21. 鈴木昭彦, 石田孝宣, 武田元博, 甘利正和, 櫻井遊, 河合賢朗, 大内憲明. 乳癌診療システムの精度向上に向けて, 第18回日本乳癌検診学会総会, 2008/12/5-6, 名古屋.
  22. 宮下穰, 鈴木昭彦, 石田孝宣, 武田元博, 甘利正和, 櫻井遊, 河合賢朗, 原田成美, 玉城研太郎, 大内憲明. 検診繰り返し受診者から発見された乳癌の検討. 第18回日本乳癌検診学会総会, 2008/12/5-6, 名古屋.
  23. 大内憲明. 乳癌検診の過去, 現在, 未来. 第19回日本乳癌検診学会総会, 札幌, 2009/11.
  24. 大内憲明. 「超音波による乳がん検診: 導入への課題とインフラ整備」. 第19回日本乳癌検診学会総会, 札幌, 2009/11.
  25. 大内憲明. 超音波乳がん検診の科学的検証とインフラ整備. 第22回日本乳腺甲状腺超音波診断会議 (教育講演), 東京, 2009/4.
  26. 大内憲明. がん検診受診率 一層の向上をめざして: がん戦略研究 J-START と受診率向上. 日本対がん協会・平成21年度がん征圧全国大会 (シンポジウム), 和歌山, 2009/9.
  27. 大内憲明. 超音波学の発展と J-START (大規模臨床試験). 第23回日本乳腺甲状腺超音波診断会議 (特別講演), 東京, 2009/10.
  28. 大内憲明. 大規模臨床試験の更なる発展に向けて: がん対策のための戦略研究. 第371回東北医学会特別シンポジウム (特別講演), 仙台, 2009/11.
  29. 祖父江友孝. 対策型検診の課題. 第16回 CT 検診学会, 東京, 2009/2.
  30. 祖父江友孝. がん対策においてがん研究が果たすべき役割—研究と対策の関係の立場から—. 第68回日本癌学会, 横浜, 2009/10.
  31. 祖父江友孝. 消化器がん治療ガイドラインの現状と問題点—がん拠点病院, がん治療均てん化の観点から—. 第64回消化器外科学会総会, 大阪, 2009/7.
  32. 祖父江友孝. 今後の乳がん検診の方向性—効率のよい検診とは—. 第19回日本乳癌検診学会総会, 札幌, 2009/11.
  33. 大内憲明. ナノ・バイオテクノロジーによる乳がんの1分子イメージング・DDS と大規模臨床試験. 低侵襲医療機器実現化フォーラム, (財)医療機器センター主催, 東京, 2009/11.
  34. 大内憲明. がん検診の有効性評価とがん対策のための戦略研究. 群馬県医学会がん対策講演会特別講演, 前橋, 2009/12/12.
  35. 大内憲明. 乳がん検診の現状と今後. 東京医科大学茨城医療センター地域がん拠点病院研修会 (特別講演), 土浦, 2010/3.
  36. 大内憲明. 乳腺病理から分子イメージング, がん戦略研究. 第24回長野乳腺診断フォーラム (特別講演), 松本 (信州大学病院), 2010/3.
  37. 祖父江友孝. 日本と韓国のがん登録の現状. 日本・スウェーデンがん対策国際協調セミナー, 東京, 2009/3.
  38. 祖父江友孝. 全国規模データベース構築のノウハウと問題点. 第2回都道府県肝疾患診療連携拠点病院間連絡協議会, 東京, 2009/3.
  39. 祖父江友孝. 対策として行うがん検診の考え方. 長野県健診担当者研修会, 松本, 2009/10.
  40. 祖父江友孝. 科学的根拠に基づくがん対策の進め方. 徳島県保健福祉部トップセミナー, 徳島, 2009/10.
  41. 祖父江友孝. 科学的根拠に基づいたがん対策の進め方. 福井済生会病院講演会, 福井, 2009/

- 11.
42. 齋藤博. がん検診率向上に向けた具体的な取組. 第7回秋田県公衆衛生学会学術大会, 秋田, 2009/10/1.
43. 齋藤博. がん検診アセスメントとマネジメント. 第18回日本婦人科がん検診学会総会・学術集会(シンポジウム), 東京, 2009/11/14.
44. 玉城研太郎, 石田孝宣, 大内憲明. 生物学的, 病理組織学的根拠に基づいた乳腺画像診断法. 第20回乳腺画像診断研究会, 東京, 2011/02/11-02/12, シンポジウム.
45. 中島一毅. 乳腺専門外来での異型病変に対する Strategy. 第20回日本乳癌画像研究会, 東京, 2011/02/11-02/12, シンポジウム.
46. 中島一毅. 乳房超音波を使いこなす? 第5回 広島乳房超音波研究会, 広島市, 2011/01/28, 特別講演.
47. 中島一毅. 乳癌術前療法について. DIF Hiroshima, 広島市, 2011/01/08, 基調講演.
48. 大崎昭彦, 竹内英樹, 杉谷郁子, 杉山迪子, 中宮紀子, 重川崇, 三角みその, 藤内伸子, 高橋孝郎, 佐伯俊昭. Triple negative 乳がんの特徴と治療戦略. 第48回日本癌治療学会, 京都, 2010/10/28-10/30, シンポジウム.
49. 大崎昭彦, 竹内英樹, 杉谷郁子, 杉山迪子, 中宮紀子, 重川崇, 三角みその, 藤内伸子, 高橋孝郎, 佐伯俊昭. DCIS と小浸潤癌の乳房 RI 診断能に関する検討. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-6/25, 口演.
50. 大崎昭彦, 竹内英樹, 杉谷郁子, 杉山迪子, 中宮紀子, 重川崇, 三角みその, 藤内伸子, 高橋孝郎, 佐伯俊昭. 乳房 MRI による DCIS 病変の進展範囲に関する検討. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, 口演.
51. 笠原善郎, 辻一郎, 大内憲明, 東野英利子, 横江隆夫, 苛原稔, 丹黒章. 乳癌検診の不利益: マンモグラフィ検診偽陽性例の実態調査. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, 特別企画.
52. 梶谷桂子, 田中友加, 片岡健, 大段秀樹. A novel concept of adoptive immunotherapy with TRAIL-expressing NK cells for eliciting an anti-breast cancer. 第69回日本癌学会学術総会, 大阪, 2010/09/22-09/24, ポスター.
53. 梶谷桂子, 田中友加, 片岡健, 大段秀樹. 乳癌細胞株に対する TRAIL 陽性 NK 細胞の抗腫瘍機構の解析. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-06/25, 口演.
54. 片岡健, 尾崎慎治, 大原正裕, 恵美純子, 村上茂, 岡田守人. センチネルリンパ節生検におけるコードレスプローブの使用経験. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-06/25, ポスター.
55. 片山晃子, 大原正裕, 恵美純子, 村上茂, 岡田守人, 春田るみ, 片岡健, 尾崎慎治. 内視鏡補助下乳房扇状切除術を施行した LCIS の1例. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-06/25, ビデオセッション.
56. 齋藤博. がん検診の精度管理. JDDW2010第49回日本消化器がん検診学会総会, 沖縄, 2010/06/11-06/12, 教育講演.
57. 齋藤博. がん検診の今後のあり方—職域検診を含め. 第27回日本臨床内科医学会シンポジウム, 金沢, 2010/02/10-02/11, 特別講演.
58. 齋藤博. 検診が消化器癌がん死亡率減少に寄与するためには. 第70回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会, 千葉, 2010/09/04, 教育講演.
59. 齋藤博. がん検診の精度管理. JDDW2010第18回日本消化器関連学会週間, 横浜, 2010/10/13, 特別企画講演.
60. 佐々田達成, 高倉有二, 大原正裕, 恵美純子, 尾崎慎治, 村上茂, 片岡健. Memorial Sloan-Kettering Cancer Center Nomogram は広島大学病院の乳癌患者群において有用である. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-06/25, ポスター.

61. 重松英朗, 小西和男, 大原正裕, 尾崎慎治, 恵美純子, 片岡健, 岡田守人. HER2陽性乳癌に対する lapatinib と trastuzumab の特性の違い; 細胞実験から. 第7回日本乳癌学会中国四国地方会, 高知, 2010/09/25, 口演.
62. 杉山迪子, 大崎昭彦, 杉谷郁子, 中宮紀子, 重川崇, 竹内英樹, 松浦一生, 三角みその, 藤内伸子, 高橋孝郎, 佐伯俊昭, 桜井孝規. 当科における DCIS の診断過程と治療に関する検討. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, 口演.
63. 祖父江友孝. 米国予防医学専門委員会乳がん検診ガイドライン改訂の考え方と日本への適用について. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, シンポジウム.
64. 高田悦雄, 福岡大輔, 村松千左子, 原武史, 藤田広志. 全自動乳癌超音波集検機の改良について. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, 口演.
65. 高田悦雄, 小林正夫. Admission ID を用いた乳癌超音波画像の DICOM 保存. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, ワークショップ.
66. 田中千晶, 大野真司. 福岡県民を対象とした検診受診率調査結果報告. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, シンポジウム.
67. 玉城研太郎, 石田孝宣, 宮下穰, 河合賢朗, 大内憲明, 笹野公伸, 玉城信光. 乳房超音波検査の精度管理—乳房超音波検診導入に向けた新たな診断基準の確立—. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, パネルディスカッション.
68. 中島一毅. エラストグラフィのポイント. 岡山エラストグラフィセミナー, 岡山, 2010/09/05, 教育講演.
69. 中島一毅. 乳房超音波検査. 岡山県医師会乳癌検診部会, 岡山, 2010/09/18, 教育講演.
70. 中島一毅. 乳癌診断・治療の基礎知識 日本超音波検査技術学会中国第8回地方会, 岡山, 2010/07/18, 特別講演.
71. 中島一毅. 乳房超音波検査の精度管理, 高松乳癌検診講演会, 香川, 2010/09/25, 特別講演.
72. 中島一毅. エラストグラフィのポイント. 新潟エラストグラフィセミナー, 新潟県, 2010/12/05, 教育講演.
73. 中島一毅. 現在の乳癌診療に基づく乳癌検診の要精査基準, 広島県産婦人科医会乳癌検診講習会. 広島市, 2010/12/12, 教育講演.
74. 中島一毅. 術前療法と温存手術. Breast Cancer Frontier Meeting in Kyushu, 福岡市, 2010/04/25, 特別講演.
75. 中島一毅. Hands-on セミナー全体講義 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, 特別企画.
76. 中島一毅. 乳房超音波診断の更なる一歩. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, ランチオンセミナー.
77. 春田直樹, 内田一徳, 山本英喜, 堀田龍一, 春田るみ, 片岡健. リンパ浮腫の診断と治療および成績: 四肢リンパ浮腫に対する CDP 教育入院指導4年間の成績, 第30回日本静脈学会総会, 宮崎市, 2010/06/17-06/18, シンポジウム.
78. 春田直樹, 内田一徳, 山本英喜, 堀田龍一, 春田るみ, 片岡健. 四肢リンパ浮腫に対する自己管理法指導実績と維持期の予後, 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-06/25, 口演.
79. 春田るみ, 片岡健, 佐々田達成, 梶谷桂子, 野間翠, 片山晃子, 恵美純子, 安井大介, 大原正裕, 尾崎慎治, 村上茂, 岡田守人, 有広光司. 若年者乳癌と高齢者乳癌における Molecular subtype と予後, 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-06/25, ポスター.
80. 春田るみ, 片岡健, 佐々田達成, 梶谷桂子, 野間翠, 安井大介, 尾崎慎治, 栗原陽子, 末岡祥子, 杉山芹華, 岡本祐嘉. 当院におけるデジタルマンモグラフィのソフトコピー診断の評価.

- 第20回日本乳癌検診学会総会，福岡，2010/11/19-11/20，口演。
81. 三好和也，片岡健，檜垣健二，井内康輝，村上茂，有田健一，津山順子，檜谷義美。「広島乳がん医療ネットワーク」の構築における，広島県内の乳癌検診受診者実数集計の成果。第20回日本乳癌検診学会総会，福岡，2010/11/19-11/20，シンポジウム。
  82. 村上茂，尾崎慎治，大原正裕，恵美純子，大原正裕，野間翠，梶谷桂子，片山晃子，佐々田達成，春田るみ，片岡健，岡田守人。ゾレドロン酸投与患者に対する顎骨壊死予防への取り組み。第18回日本乳癌学会学術総会，札幌，2010/06/24-6/25，口演。
  83. 恵美純子，大原正裕，長嶺一郎，片山晃子，梶谷桂子，佐々田達成，野間翠，安井大介，尾崎慎治，春田るみ，片岡健，村上茂，岡田守人，有広光司。乳がん症例における Ki67発現と Magnetic Resonance Imaging (MRI) 検査および Positron Emission Tomography (PET) 検査における画像診断的特徴に関する検討。第110回日本外科学会定期学術集会，名古屋，2010/04/08-04/10，口演。
  84. 恵美純子，大原正裕，片山晃子，佐々田達成，梶谷桂子，野間翠，安井大介，尾崎慎治，春田るみ，片岡健，村上茂，岡田守人，有広光司。乳がん症例における Ki67発現を含む組織学的因子と MRI 検査および PET 検査における画像診断的特徴に関する検討。第18回日本乳癌学会学術総会，札幌，2010/06/24-6/25，口演。
  85. 守麻里子，大崎昭彦，杉谷郁子，杉山迪子，中宮紀子，重川崇，竹内英樹，三角みその，藤内伸子，高橋孝郎，佐伯俊昭。腫瘍マーカー高値を契機に FDG-PET にて発見された早期乳癌の1例。第20回日本乳癌検診学会総会，福岡，2010/11/19-11/20，ポスター。
  86. 安井大介，大原正裕，佐々田達成，片山晃子，梶谷桂子，野間翠，恵美純子，尾崎慎治，春田るみ，村上茂，片岡健，有広光司，岡田守人。IHC-intrinsic subtype に亜分類した Triple negative 乳癌の臨床的特徴の検討。第18回日本乳癌学会学術総会，札幌，2010/06/24-6/25，ポスター。
  87. 遠藤登喜子，森田孝子，丹羽多恵，大岩幹直，白岩美咲，西田千嘉子。アンケート調査による精密検査としての乳房超音波検査の実態とその問題点。第19回日本乳癌画像研究会，明石，2010/03/20-03/21，口演。
  88. 遠藤登喜子，堀田勝平，岡崎正敏，森田孝子，中島康雄，丹羽多恵，大岩幹直，白岩美咲，西田千嘉子，岩田裕樹。乳がん検診施設におけるデジタルマンモグラフィの現状と問題点。第18回日本がん検診・診断学会，東京，2010/07/16-07/17，口演。
  89. 遠藤登喜子。放射線診療における CAD マンモグラフィにおける CAD。日本放射線技術学会第66回総会学術大会，横浜，2010/04/08-04/10。ワークショップ。
  90. 遠藤登喜子，大岩幹直，白岩美咲，西田千嘉子，森田孝子，丹羽多恵。乳がん検診の精密検査施設における医師の超音波検査の検討。第18回日本乳癌学会学術総会，札幌，2010/06/24-06/25，ポスター。
  91. 遠藤登喜子，大岩幹直，白岩美咲，西田千嘉子。DMG ソフトコピー診断における初期表示画像の改善。第29回日本画像医学会，東京，2010/02/26-02/27，口演。
  92. 遠藤登喜子，朽木恵，篠原範充，田部井真記子，大岩幹直，白岩美咲，森田孝子，丹羽多恵，須田波子，鈴木るり子，西川美紀子，佐々実穂。モニタ診断における読影環境の検討（1）画像と観察環境について。第20回日本乳癌検診学会総会，福岡，2010/11/19-11/20，口演。
  93. 河合賢朗，南優子，西野善一，辻一郎，大内憲明。日本人女性における成人期の肥満，体重変化と乳がん罹患リスクの関連。第69回日本癌学会総会。大阪，2010/09/24，口演。
  94. 河合賢朗，石田孝宣，武田元博，甘利正和，中

- 島護雄, 玉城研太郎, 大内憲明. 複数回のステレオガイド下マンモトーム生検にて診断された乳癌症例の検討. 第110回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2010/04/08-04/10, 口演.
95. 河合賢朗, 石田孝宣, 鈴木昭彦, 玉城研太郎, 大内憲明. 検診受診率向上への試み: 郵便並びに電話連絡を用いた繰り返し受診. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-06/25, ポスター.
96. 河合賢朗, 石田孝宣, 鈴木昭彦, 大貫幸二, 西野善一, 渋谷大助, 大内憲明. 地域がん登録を用いた検診モダリティ別乳がん生存率の検討. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, 口演.
97. 吉川和明, 有馬範行, 黒田弘之, 白澤郁代, 須田波子, 丹羽多恵, 森田孝子, 遠藤登喜子. 三重読影と二重読影の検診精度の比較. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, 口演.
98. 古妻嘉一, 遠藤登喜子, 岩瀬拓士, 大貫幸二, 角田博子, 東野英利子, 鈴木昭彦, 古川順康, 森本忠興. マンモグラフィ (MMG) 読影精度の現況と対策-更新診断からの検討. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-06/25, ポスター.
99. 佐竹洋明, 太田みどり, 大内憲明, 石田孝宣, 河合賢朗, 伊藤聰彦. 受診率50%達成に向けて: 仙台市の取組み. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, シンポジウム.
100. 森下亜希, 広藤喜章, 松田恵里, 小池佑加子, 林和奈, 若山卓也, 遠藤登喜子. デジタルマンモグラフィ品質管理用 QC ファントムを使用した複数社 X 線装置における品質管理の検討. 日本放射線技術学会第66回総会学術大会, 横浜, 2010/04/08-04/10, 口演.
101. 西田千嘉子, 遠藤登喜子, 森谷鈴子, 大岩幹直, 白岩美咲, 森田孝子, 吉川和明, 市原周, 長谷川正規, 佐藤康幸. 硬化性腺症内に病変を有する非浸潤癌の画像診断: 画像と病理の対比. 第69回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2010/04/08-04/11, 口演.
102. 西田千嘉子, 森田孝子, 遠藤登喜子, 大岩幹直, 白岩美咲, 吉川和明, 市原周, 森谷鈴子, 長谷川正規, 佐藤康幸, 林孝子, 加藤彩. 無症状発見乳がんと有症状乳がんの比較検討. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-6/25, ポスター.
103. 西田千嘉子, 森谷鈴子, 森田孝子, 遠藤登喜子, 白岩美咲, 大岩幹直, 岩田裕樹, 丹羽多恵, 市原周, 長谷川正貴, 佐藤康幸, 林孝子, 加藤彩. MG 検診発見内分泌分化を伴う両側同時多発乳癌の1例. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, 口演.
104. 石田孝宣, 河合賢朗, 玉城研太郎, 成川洋子, 大内憲明. J-START からみえてきたもの. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, パネルディスカッション.
105. 大岩幹直, 白岩美咲, 西田千嘉子, 遠藤登喜子. ソフトコピー診断の拡大の必要性の検討. 第29回日本画像医学会, 東京, 2010/02/26-02/27, 口演.
106. 大岩幹直, 遠藤登喜子, 白岩美咲, 西田千嘉子, 森田孝子, 佐藤康幸, 林孝子, 加藤彩, 市原周, 森谷鈴子, 長谷川正貴. 硬化性腺症を背景にもつ乳癌症例の発見契機の検討. 第20回日本乳癌検診学会総会, 福岡, 2010/11/19-11/20, 口演.
107. 大原正裕, 尾崎慎治, 恵美純子, 村上茂, 岡田守人, 片岡健, 尾田三世, 有広光司. 当院での進行再発 HER2 陽性乳癌への Trastuzumab の治療効果の検討. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/6/24-6/25, ポスター.
108. 丹羽多恵, 森田孝子, 須田波子, 鈴木るり子, 小林尚美, 大岩幹直, 遠藤登喜子. 検診デジタルマンモグラムのハードコピーとソフトコピーでの石灰化の検出. 第18回日本乳癌学会学術総会, 札幌, 2010/06/24-06/25, ポスター.
109. 丹羽多恵, 森田孝子, 遠藤登喜子. 愛知県A市

における乳がん検診の実施状況と受診者増加に伴う問題点の検討。第20回日本乳癌検診学会総会，福岡，2010/11/19-11/20，口演。

110. 町井涼子，雑賀久美子，青木綾子，濱島ちさと，斎藤博。市町村に対する精度管理評価還元効果の検討を目的としたランダム化比較試験。第69回日本公衆衛生学会総会，東京，2010/10/27-10/29。一般演題。

111. 白岩美咲，西田千嘉子，大岩幹直，森田孝子，遠藤登喜子。50 $\mu$ 直接変換型 DR マンモグラフィ装置と CR 装置における石灰化の良悪性診断性能の検討。第69回日本医学放射線学会総会，横浜，2010/04/08-04/11，口演。

112. 白岩美咲，遠藤登喜子，篠原範充，森田孝子，丹羽多恵，窪田智行，長尾育子，笠原善郎，古妻嘉一。デジタルマンモグラフィとモニタ診断の現状－精中委指導者研修会アンケート調査より－。第20回日本乳癌検診学会総会，福岡，2010/11/19-11/20，口演。

113. 片岡健。検診の実施間隔についての過激な提言：乳がん検診受診率と精度管理向上を目指して，第18回日本がん検診・診断学会総会，東京，2010/07/16-07/17，シンポジウム。

114. 片岡健。がん診療 up date～開業医に役立つ最

新の知識：乳がん領域－実地医家に知って欲しい乳癌診療の現状。第63回広島医学会総会，広島市，2010/11/14，シンポジウム。

115. 林和奈，安藤朝子，米澤科乃，小池佑加子，森下亜希，中川美乃里，遠藤登喜子，広藤喜章。乳房撮影における皮膚入射表面線量の評価。第20回日本乳癌検診学会総会，福岡，2010/11/19-11/20，口演。

### (3) メディア

AERA

2010年2月18日「乳がんマンモ検診の限界 米政府と学会が出した勧告の波紋」

毎日新聞

2010年2月18日朝刊「乳がん検診 日本どうする」

NHK「あさイチ！」

2010年11月22日「乳がん検診の話題」

2010年12月20日「ちゃんと知りたい！乳がん検診」

### 3. 知的財産権の出願・登録状況

(国内特許) 該当なし

(国外特許) 該当なし



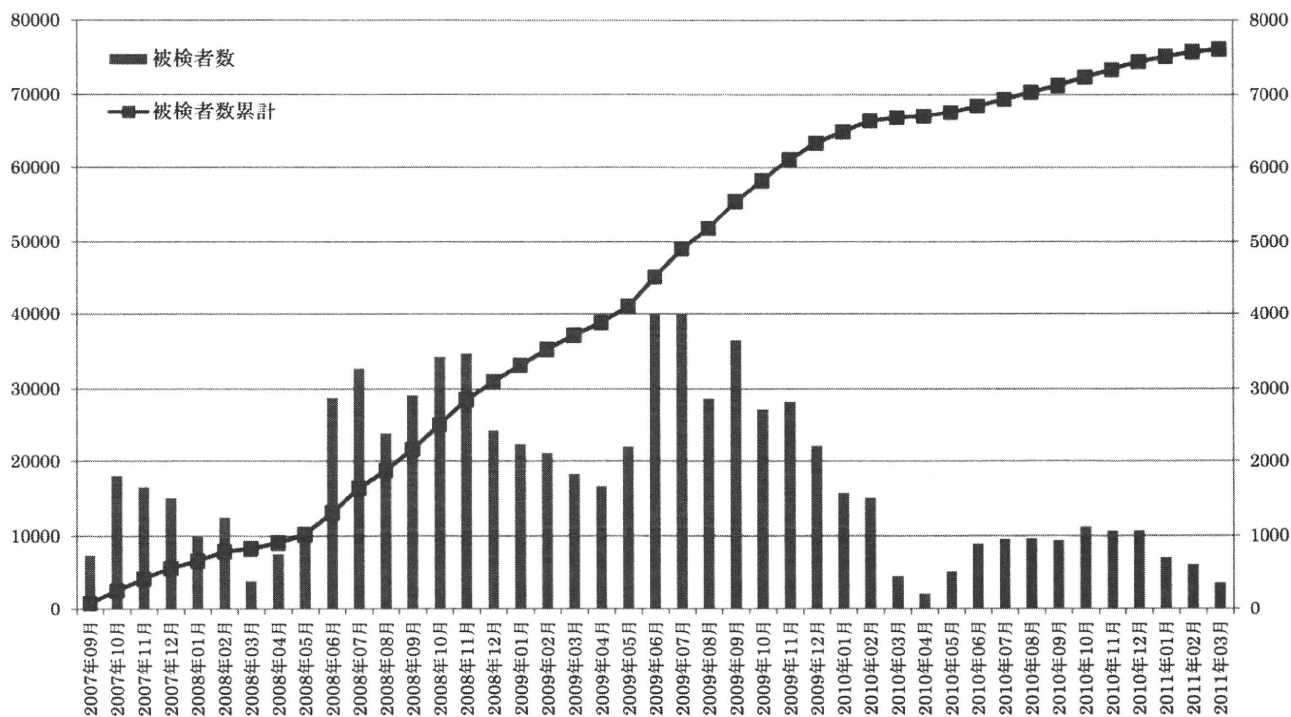


図 1. ランダム化比較試験登録者数の推移

(右目盛=月別登録数, 左目盛=累積数)

表 1 - 1. 乳房超音波講習会の開催実績

(平成 18 - 19 年度)

回数	開催地	開催日	医師	技師
(第 1 - 17 回)*	(茨城他)	(2003 年 1 月 - 2007 年 2 月)	(285)	(439)
第 18 回	茨城	2007 年 3 月 10 - 11 日	42	
第 19 回	茨城	2007 年 3 月 17 - 18 日		47
第 20 回	宮城	2007 年 4 月 29 - 30 日	48	
第 21 回	福井	2007 年 5 月 26 - 27 日		45
第 22 回	静岡	2007 年 6 月 23 - 24 日		46
第 23 回	東京	2007 年 7 月 28 - 29 日	46	
第 24 回	北海道	2007 年 8 月 18 - 19 日		47
第 25 回	福岡	2007 年 9 月 23 - 24 日	46	
第 26 回	福岡	2007 年 10 月 20 - 21 日		47
第 27 回	東京	2007 年 11 月 3 - 4 日		47
第 28 回	岡山	2007 年 12 月 8 - 9 日	52	
第 29 回	愛知	2008 年 1 月 13 - 14 日	49	
第 30 回	京都	2008 年 2 月 2 - 3 日		47
第 31 回	東京	2008 年 2 月 15 - 16 日	22	22
第 32 回	茨城	2008 年 3 月 1 - 2 日		49
小 計			305	397

\* 第 1 - 17 回：日本乳房甲状腺超音波診断会議 (JABTS) 単独開催

表 1 - 2. 乳房超音波講習会の開催実績

(平成 20 年度)

回数	開催地	開催日	医師	技師
第 33 回	茨城	2008 年 5 月 17 - 18 日	48	
第 34 回	岡山	2008 年 6 月 28 - 29 日		46
第 35 回	新潟	2008 年 7 月 12 - 13 日	48	
第 36 回	長野	2008 年 7 月 26 - 27 日	49	
第 37 回	宮城	2008 年 8 月 2 - 3 日	48	
第 38 回	東京	2008 年 8 月 16 - 17 日		45
第 39 回	兵庫	2008 年 8 月 23 - 24 日	47	
会場 40	愛知	2008 年 9 月 6 - 7 日	47	
会場 41	東京	2008 年 10 月 12 - 13 日		45
会場 42	徳島	2008 年 11 月 3 - 4 日	38	
第 40 回	東京	2008 年 11 月 8 - 9 日	48	

第 41 回	宮城	2008年11月23－24日		48
第 42 回	大阪	2008年11月29－30日		46
第 43 回	岡山	2008年12月13－14日	43	
第 44 回	栃木	2008年12月20－21日		45
第 45 回	高知	2009年 1 月11－12日	47	
第 46 回	北九州	2009年 1 月17－18日		48
第 47 回	福井	2009年 1 月31－ 2 月 1 日	46	
会 場 51	東京	2009年 2 月14－15日	21	31
第 48 回	千葉	2009年 2 月21－22日		47
第 49 回	名古屋	2009年 2 月28－ 3 月 1 日		48
第 50 回	大阪	2009年 3 月 7－ 8 日		47
小 計			530	496

表 1－3. 乳房超音波講習会の開催実績

(平成21年度)

回数	開催地	開催日	医師	技師
第 51 回	茨城	2009年 5 月16－17日	47	
第 52 回	名古屋	2009年 5 月30－31日	45	
第 53 回	岡山	2009年 6 月27－28日		48
第 54 回	東京	2009年 7 月19－20日	47	
会 場 59	和歌山	2009年 8 月 1－ 2 日	48	
第 55 回	新潟	2009年 8 月15－16日		43
第 56 回	千葉	2009年 8 月22－23日	36	
第 57 回	福岡	2009年 9 月 5－ 6 日		41
第 58 回	東京	2009年 9 月19－20日		48
第 59 回	仙台	2009年10月17－18日	42	
第 60 回	愛知	2009年11月14－15日		47
第 61 回	仙台	2009年11月28－29日		48
第 62 回	岡山	2009年12月12－13日	49	
会 場 68	東京	2010年 1 月23－24日	48	
会 場 69	東京	2010年 2 月20－21日		48
第 63 回	千葉	2010年 2 月27－28日		48
第 64 回	大阪	2010年 3 月13－14日		47
第 65 回	福岡	2010年 3 月21－22日	46	
小 計			408	418

表 1 - 4. 乳房超音波講習会の開催実績

(平成22年度)

回数	開催地	開催日	医師	技師
第 66 回	茨城	5 月15日～16日		48
第 67 回	岡山	6 月12日～13日		48
第 68 回	大阪	7 月18日～19日	49	
第 69 回	東京	8 月14日～15日		48
会 場 77	愛知	8 月21日～22日	49	
会 場 78	東京	9 月19日～20日	49	
第 70 回	東京	10月23日～24日	49	
第 71 回	仙台	11月 6 日～ 7 日		47
第 72 回	岡山	12月18日～19日	48	
第 73 回	愛知	1 月22日～23日		48
第 74 回	栃木	2 月26日～27日		48
小 計			244	287

表 1 - 5. 乳房超音波講習会の開催実績

まとめ

	開催回数	医師	技師
平成14-18年度	17回	285	439
平成18年度	2 回	42	47
平成19年度	13回	305	397
平成20年度	18回 (22会場)	530	496
平成21年度	15回 (18会場)	408	418
平成22年度	11回 (10会場)	244	287
合 計		1,814	2,084

表2. 有効性を検証するための比較試験：新規登録者数（率）

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計
介入群	個別 RCT	2,234人 (26.8%)	8,711人 (30.2%)	11,572人 (39.0%)	4,533人 (48.1%)	27,050人 (35.5%)
	クラスター RCT	1,770人 (21.3%)	4,974人 (17.3%)	2,902人 (9.8%)	217人 (2.3%)	9,863人 (12.9%)
	非ランダム化	52人 (0.6%)	877人 (3.0%)	471人 (1.6%)	0 (0.0%)	1,400人 (1.8%)
	計	4,056人 (48.3%)	14,562人 (50.6%)	14,945人 (50.4%)	4,750人 (50.5%)	38,313人 (50.3%)
非介入群	個別 RCT	2,242人 (26.9%)	8,581人 (29.8%)	11,711人 (39.5%)	4,531人 (48.1%)	27,065人 (35.5%)
	クラスター RCT	1,584人 (19.0%)	4,724人 (16.4%)	2,777人 (9.4%)	134人 (1.4%)	9,219人 (12.1%)
	非ランダム化	444人 (5.3%)	935人 (3.2%)	220人 (0.7%)	0 (0.0%)	1,599人 (2.1%)
	計	4,270人 (51.3%)	14,240人 (49.4%)	14,708人 (49.6%)	4,665人 (49.5%)	37,883人 (49.7%)
	総計	8,326人 (100%)	28,802人 (100%)	29,653人 (100%)	9,415人 (100%)	76,196人 (100%)

表 3. 有効性を検証するための比較試験：平成21年度の二回目検診受診者数（率）

		初回受診者数 (平成19年度)	二回目受診者数 (平成21年度)	二回目受診率
介入群 (A1)	個別 RCT	2,234人	2,008人	89.6%
	クラスター RCT	1,770人	1,109人	62.7%
	非ランダム化	52人	22人	42.3%
	計	4,056人	3,139人	77.2%
非介入群 (B1)	個別 RCT	2,242人	2,017人	89.7%
	クラスター RCT	1,584人	869人	54.9%
	非ランダム化	444人	236人	53.2%
	計	4,270人	3,122人	73.0%
	総計	8,326人	6,261人	75.2%

表 4. 有効性を検証するための比較試験：平成22年度の二回目検診受診者数（率）

		初回受診者数 (平成20年度)	二回目受診者数 (平成22年度)	二回目受診率
介入群 (A2)	個別 RCT	8,711人	6,971人	80.0%
	クラスター RCT	4,974人	3,563人	71.6%
	非ランダム化	877人	638人	72.7%
	計	14,562人	11,172人	76.7%
非介入群 (B2)	個別 RCT	8,581人	6,542人	76.2%
	クラスター RCT	4,724人	3,179人	67.3%
	非ランダム化	935人	553人	59.1%
	計	14,240人	10,274人	72.1%
	総計	28,802人	21,446人	74.5%

表 5. 有効性を検証するための比較試験：平成21年度と平成22年度の二回目検診受診者数

		初回受診者数 (平成19+20年度)	二回目受診者数 (平成21+22年度)	二回目受診率
介入群 A1+A2	個別 RCT	10,945人	8,979人	82.0%
	クラスター RCT	6,744人	4,672人	69.3%
	非ランダム化	929人	660人	71.0%
	計	18,618人	14,311人	76.9%
非介入群 B1+B2	個別 RCT	10,823人	8,559人	79.1%
	クラスター RCT	6,308人	4,048人	64.2%
	非ランダム化	1,379人	789人	57.2%
	計	18,510人	13,396人	72.4%
	総計	37,128人	27,707人	74.6%

表 6. 今後の比較試験年次別計画

	平成19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
介入群	A1 (0.5万人)	A2 (1.5万人)	A1 (0.5万人)	A2 (1.5万人)		
			A3 (1.5万人)	A4 (0.5万人)	A3 (1.5万人)	A4 (0.5万人)
非介入群	B1 (0.5万人)	B2 (1.5万人)	B1 (0.5万人)	B2 (1.5万人)		
			B3 (1.5万人)	B4 (0.5万人)	B3 (1.5万人)	B4 (0.5万人)
累積新規登録者数	1万人	4万人	7万人	8万人		
累積2回受診者数			1万人	4万人	7万人	8万人
単年度受診者数	1万人	3万人	4万人	4万人	3万人	1万人

(注：平成23-24年度は、がん対策のための戦略研究の研究期間に含まれない)

## II. 研究成果の刊行に関する一覧表



## II. 研究成果の刊行に関する一覧表

別紙 1

書籍

番号	著者氏名	タイトル名	編集者名	連名著者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	頁
1	大内憲明	乳がん制圧へ向けた基本戦略と国民の責務－21世紀の対がん戦略：がん診療の最前線－	山中學		メディアコピー	富士テレビオ	東京	2007	108-127
2	大内憲明	がんの予防と効果的ながん検診	垣添忠生		がんの新事典	日本臨牀社	大阪	2007	142-148
3	大内憲明	乳がん検診の精度及び効率の向上に関する研究		内山菜智子, 東野英利子, 栗山進一, 福田護, 山田隆之	厚生労働省がん研究助成金による研究報告書	国立がんセンター	東京	2007	102-106
4	大内憲明	もっと知りたい乳がん－あなたを守る検診のすすめ				日本対がん協会	東京	2007	1-33
5	渡部剛	新しい診断と治療のABC, 乳癌治療のガイドライン：標的を重視した治療へ	遠藤登喜子	渡部剛, 多田寛, 石田孝宣, 大内憲明	最新医学別冊	最新医学社	大阪	2007	240-247
6	大内憲明	乳癌：基礎臨床研究のアップデート	大内憲明		日本臨牀 増刊号	日本臨牀社	大阪	2007	1-2
7	南優子	ライフスタイルの変化と乳癌疾患	大内憲明	南優子, 角川陽一郎, 大内憲明	日本臨牀 増刊号	日本臨牀社	大阪	2007	22-27
8	大内憲明	乳癌検診の現状と課題	大内憲明		日本臨牀 増刊号	日本臨牀社	大阪	2007	213-219

9	大内憲明	癌検診のエビデンス・乳癌検診	坪野吉孝			EBM ジャーナル	中山書店	東京	2007	58-61
10	大内憲明	がんの予防と効果的ながん検診				からだの科学			2007	142-148
11	河合賢朗	がん早期発見術：乳癌検診	山口建	石田孝宣, 鈴木昭彦, 櫻井遊, 大内憲明		治療	南山堂	東京	2008	105-109
12	河合賢朗	外科医に必要な化学療法 の知識：乳癌の集学的治療と化学療法		石田孝宣, 武田元博, 多田寛, 大内憲明		外科治療増刊			2008	241-249
13	大内憲明	マンモグラフィによる乳がん 検診の手引き—精度管理マニ アル, 第4版	大内憲明			マンモグラフィによる 乳がん検診の手引 き—精度管理マニ アル, 第4版	日本医事新報社	東京	2008	1-189
14	河合賢朗	がん早期発見術：乳癌検診		石田孝宣, 鈴木昭彦, 櫻井遊, 大内憲明		治療			2008	105-109
15	大内憲明	乳がん検診の現況と問題点		鈴木昭彦, 櫻井遊, 石田孝宣		日医雑誌			2008	663-666
16	大内憲明	マンモグラフィ検診の国際比 較		河合賢朗, 南優子		乳癌の臨床			2008	173-181
17	河合賢朗	乳癌検診の意義と実態：今後 の展望について		石田孝宣, 鈴木昭彦, 櫻井遊, 大内憲明		Focus on Oncology			2008	12-15

18	河合賢朗	若年者乳がん検診の現状と問題点		石田孝宣, 原田成美, 甘利正和, 大内憲明	Pharma Medica			2008	11-14
19	戸井雅和	乳癌の基礎と臨床：乳癌検診のエビデンス	戸井雅和	石田孝宣, 大内憲明, 他	乳癌テララモード治療の理論と実践	医薬ジャーナル社	大阪	2009	1019-1030
20	鈴木昭彦	腫瘍マーカー：CA15-3とその他の乳癌マーカー	和田攻, 他	大内憲明	臨床検査ガイド2009-2010	文光堂	大阪	2009	909-912
21	甘利正和	経口フックピリミジンをを用いた化学療法：トラスツズマブとの併用療法	佐伯俊昭	大内憲明	乳がん標準化学療法の実際	金原出版	東京	2009	114-118
22	甘利正和	手術：乳房温存術	福富隆志	大内憲明	乳癌診療ハンドブック, 改定2版	中外医学社	東京	2009	123-135
23	甘利正和	主な腫瘍マーカーとその特徴：CA72-4 (TAG72)	石井勝	大内憲明	腫瘍マーカーハンドブック, 改定版	医薬ジャーナル社	東京	2009	63-65
24	武田元博	ナノDDSと乳癌標的治療	稲治英生	大内憲明	乳癌テララモード治療の理論と実践	金原出版	東京	2009	83-91
25	中島一毅	検診超音波検査の精度管理			これからの乳癌診療	金原出版	東京	2010	9-18
26	大崎昭彦	皮下剥離の方法	矢形寛 芳賀駿介 中村清吾編		整容性からみた乳房温存治療ハンドブック	メディカル・サイエンス・インターナショナル	東京	2010	101-106
27	斎藤博	大腸癌の疫学	斎藤裕輔, 田中信治, 渡邊聡明編	雑賀久美子	大腸疾患診療のStrategy	日本メディカルセンター	東京	2010	

## 別紙 2

## 英文論文

番号	著者氏名	論文タイトル名	連名著者名	発表誌名	巻	号	出版年	頁
1	<u>Ohuchi N</u>	Current topics in breast cancer clinical research, 2007		Int J Clin Oncol	13		2008	1-2
2	Yamada T	Diagnostic performance of detecting breast cancer on computed radiographic (CR) mammograms: Comparison of hard copy film, 3-megapixel liquid-crystal-display (LCD) monitor and 5-megapixel LCD monitor.	<u>Suzuki A</u> , <u>Uchiyama N</u> , <u>Ohuchi N</u> , <u>Takahashi S</u> .	European Radiology	18	11	2008	2363-2369
3	Geller BM	Communicating with women about mammography.	<u>Zapka J</u> , <u>Hofvind SS</u> , <u>Scharpantgen A</u> , <u>Giordano L</u> , <u>Ohuchi N</u> , <u>Ballard-Barbash R</u> .	J Cancer Education	22	1	2007	25-31
4	<u>Ohuchi N</u>	Current status and problems of breast cancer screening.	<u>Suzuki A</u> , <u>Sakurai Y</u> , <u>Kawai M</u> , <u>Narikawa Y</u> , <u>Narimatsu H</u> , <u>Ishida T</u> .	JMAJ	52	1	2009	1-5
5	<u>Suzuki A</u>	Age specific interval breast cancers in Japan: estimation of the proper sensitivity of screening using a population-based cancer registry.	<u>Kuriyama S</u> , <u>Kawai M</u> , <u>Amari M</u> , <u>Takeda M</u> , <u>Ishida T</u> , <u>Ohnuki K</u> , <u>Nishino Y</u> , <u>Tsuji I</u> , <u>Shibuya D</u> , <u>Ohuchi N</u> .	Cancer Science	99	11	2008	2264-2267
6	<u>Sobue T</u>	Current activities and future directions of cancer registration system in Japan.		Int J Clin Oncol	13		2008	97-101
7	Kamo K	Lifetime and age-conditional probabilities of developing or dying of cancer in Japan.	<u>Katanoda K</u> , <u>Sobue T</u> , et al	Jpn J Clin Oncol	38		2008	571-576